

*『ジャイモン』ネパール語で「主(神)を讃美しましょう」の意

留学して感じたこと ～忙しい日本 VS のんびりネパール～

“Country of rising Sun, Nippon(日出ずる国、日本)”, これはネパールの学校で習った言葉です。また、日本人は親切で、平均寿命が長い、日本のアニメや漫画は世界中で人気がある等と聞いたことがありました。ネパールは発展途上国ですが日本は発展した国なので、日本とネパールは多くの点で違うだろうと思っていました。

今年の3月に来日しました。日本へ来た目的は日本の学校で勉強することです。学校は4月から始まるので、学校が始まるまではホストファミリーとゆっくり時間を過ごしました。日本はきれいな国であることが分かりました。信号も沢山あります。狭い道にも信号があるのに驚きました。

私は今、近大附属高校の英語特化コースに所属しています。クラスメイトはみんな優しく、私が困った時には助けてくれます。分からない日本語があれば説明してくれます。私は彼らが英語で分からない事があった時に助けています。また越川先生と江藤先生から個人的に漢字と日本語会話を教えてもらっています。

日本とネパールの文化は違うところも沢山あります。日本人は日常生活の中で「ありがとう」や「すみません」という言葉をよく使います。ネパールでも助けてもらった時や何かもらった時に「ありがとう」と言います。しかし、「すみません」とはあまり言いません。日本では習慣でこのような言葉を使います。日本人が親切な人だということは日本人の日常生活からも分かります。

日本とネパールのもう一つの違いは時間の価値です。日本人はみんな時間に合わせて生活しています。ネパールでは日本と逆です。日本の社会人は一生懸命働いて、忙しい時間を過ごしています。ネパールでは仕事の無い人が沢山います。だから暇です。みんなのんびりして時間を過ごしています。

ネパールは発展途上国です。日本人みたいにみんな時間に合わせて一生懸命働いたらネパールも発展するだろうと思いました。ネパールもいつか日本のような発展した国になることを願っています。

最後になりましたが、私が自分の家族のように愛されているホストファミリーに感謝しています。ネパールにいる私の家族から離れて生活していますが、日本にも家族がいることは神様の祝福だと思っています。

みなさん本当にありがとうございます。



琵琶湖畔でホストファミリーと



近畿大学附属高校 2学年 プラディプ・マハラジャン

NPO法人 ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN)

事務局：〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3丁目1番4号(鬼頭宅)

Tel/Fax 072-695-0513

URL : <http://www.npo-bfn.org>

目次:

留学して感じたこと	1
速報 やったぞサリタ！ 近大薬学部合格！！	2
定着してきたNHA卒業式	2
ネパール訪問記(1)	3
ネパール訪問記(2)	4
教師コラム(2)	5
ネパールのカースト制度 (最終回)	5
子供たちの日常生活(10)	6
質問箱	7
ネパール豆知識	7
連合「愛のカンパ」から 助成決定	8
支援者状況	8
新規に支援される子供たち	8
新中期目標	8
長期ビジョン積立金	8
編集後記	8

ハイライト:

留学して感じたこと
(1ページ)

速報 やったぞサリタ！近大
薬学部！！合格
(2ページ)

定着してきたNHA卒業式
(2ページ)

連合「愛のカンパ」から助成
決定
(8ページ)

速報 やったぞ！ サリタ 近大・薬学部合格！！！！

12月3日に近畿大学の合格通知書がサリタの手元に届きました。サリタは、NHAを主席で卒業したあと、カレッジ(日本の高校に該当する)に入りました。その時から、日本の大学に留学したい希望がありました。しかし、家の経済状況を考えるならば日本の大学に留学することなど不可能です。ちょうどその時、NHAの相談役チェ・グンミン氏が来日し、近畿大学附属高校に留学できる道を開いてくださいました。

BFNはサリタのホームステイ先を探しました。サリタは本格的に日本語の勉強を始めました。

昨年3月末に来日し、4月に近高2学年英語特化クラスに編入しました。初めて先生方の前で挨拶をした時、日本語の原稿を読むのではなく、しっかり前を向いてスピーチをしたのに先生方が大変驚かれたそうです。クラスの生徒もネパールの留学生は初めてです。しかし、クラスメイトは教科書に漢字にルビを振って日本語学習の応援をしてくれました。サリタも得意の英語でクラスメイトを助けました。また、ホームステイのご家族全員から自分の子供のように迎

えてくださいました。サリタは近高に入学した時から、薬学部に進学することを決めました。しかし、ネパールからの留学生としては、薬学部一般入学するのは不可能です。どうしても特待生(入学料、授業料免除)として進学しなければならないという高いハードルがありました。日本語習得だけでも大変です。ネパールの学校との格差もあります。小さなサリタは、本当に一生懸命に勉学に励みました。その時のサリタの様子はMBSのテレビ番組「ホームカミ」でも全国放送で紹介されたりしました。そして、大きなプレッシャーを見事に跳ね除けて、今回、念願の薬学部合格しました。やったぞ！ サリタ おめでとう。

そして、我が子のように物心両面で支えてくださったホームステイのご家族やクラスメイトの皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

BFN理事 岡本 安司

定着してきたNHA卒業式

2013年度、52名の生徒がNHAからSLC試験を受験しました。NHAからSLC試験を受験した6回目の学年です。2009年以来、SLC受験をした卒業生たちのお祝いをするのが非常に良い文化として定着してきました。それは日本のBFNの皆様の功績です。BFNの皆様は経済的な支援だけでなく、卒業式という概念も提供してくださいました。ネパールに

は卒業式がありません。

この素晴らしい文化を取り入れ、NHAの運営陣はSLC試験を受験した卒業生たちを送り出すために、5月23日に卒業式をとり行いました。この素晴らしい卒業式の経済的支援はすべてBFNの皆様によってなされました。NHAの運営陣はこの貴重なご支援に対し、感謝の意をBFNの皆様にお伝えします。

式では、プロ・エデュケーション・ネパール(PEN)の代表者のビルバドル・ラナ氏を通して、卒業生全員に卒業記念品として、オックスフォード社のアドバンス英語辞書と書類を入れるファイルが贈られました。

また、式当日には、クシクシホテルでランチパーティーが行われました。パーティーは卒業生だけでなく、教職員や招待客の方々も共に参加しました。全教職員、招待客、卒業生合わせて105名の人々がパーティーを楽しみました。

卒業生、教職員一同は、素晴らしいプレゼントと美味しいランチパーティーにとっても感謝しております。PENを代表して、また個人として、BFNのすべての皆様の愛と親切なご支援に対し、心からお礼を申し上げます。

PEN代表 ビルバドル・ラナ



NHA訪問記(1)

夢は叶えるもの、私も頑張るからね

ネパールという国に関して、知っていた事と言えばヒマラヤ山脈・そして国自体が大変貧しいという事。その様な中、ネパールの学生が日本語を勉強していると聞きつけ、私にも何かできないか? 想いがあるのならば行動せねば! と強く思い今回参加させて頂きました。

到着後、フライトの疲れも取れぬまま急ぎ足で始まった授業ですが、限られた時間の中でできる限りの時間を生徒に使いたい、と必死の思いで始めました。日本語のクラスは、ボランティアの訪問も不定期の為、時間の設置も難しく、正規の授業が終わった放課後に特別クラスとして設けられています。日本の学校には当たり前にあるはずの白板や磁石、画用紙等はもちろんありません。事前に日本から教材等も沢山持参しましたが、ボールペン等も満足になく、初めは苦労しました。日本で私たちが当たり前だと思っている環境は決して当たり前ではないのです。

学校から宿泊先のホテルに帰ると、よく同行した先生に、日本では当たり前と思っていた事がいかに恵まれていたのか、という事を話しました。週末に都市部のカトマンドゥに行くとその気持ちはさらに強まりました。整備のされていない道路、人々の服装、井戸水で洗濯をする姿や体を洗う光景・・・同じ地球、同じ時代でこんなにも環境が違うものかと言葉を失いました。しかし、それと同時に印象的だった事はネパールの人が皆幸せそうであるという事です。ネパールには日本の様な便利さはないけれども、違うものがある。そこにあるも



ので生きる、またその事に満足しているという事です。ネパールの人の貧しい中、幸せそうな笑顔を見ると本当の幸せとは何か? を考えさせられました。

ネパールの子供たちになぜこの国は貧しいのか、と落胆している子はいません。貧しいがいつか飛躍したいから日本に行って勉強してこの国を変えたい、とキラキラと目を輝かせている子供たちばかりです。物が満足にない大変な授業の準備の中、活力となったのは生徒が大急ぎで走って授業に来る姿でした。朝から既に何限も勉強した後である

のに喜んで授業に来てくれました。習った挨拶や表現はすぐに使う、宿題を出すと大喜びです。生徒の学ぼうとする意欲を目の当たりにし、次第に私の意識も変わり始め、ないもので嘆くのではなく、ネパールのあるもので出来る限りの授業の工夫をしました。次第に物の無さに困る事はなくなり、私の方こそ工夫する事を学びました。1か月という短い期間では伝えられる事に限りがあり、心残りはもちろんありますが、帰国の際に生徒から「私の夢はいっぱい勉強して日本に行くこと!」、「日本の勉強が好き! 日本がもっと好きになった!」と満面の笑顔で伝えられた時は、微々たる力であったとしても一人の生徒の人生の目標のきっかけになる事ができたのかなと思うと胸がいっぱいになりました。

今回の出会いを通して私自身も本当の幸せとは何かを考えさせられ、帰国した今でも日常で、これは本当に自分にとって必要なものなのか、とふと立ち止まることが増えました。また何か落ち込みそうになったときも、遠いネパールではこの国・日本にくる事を夢に、目標に勉強を頑張っている生徒がいる! 私も頑張ろう! と私自身の頑張る原動力にもなっています。

これから少しでもボランティアを考えている方は少し大袈裟かもしれませんが、自分ができる何かしらがあ、一人の人生を大きく変えるかもしれない、と自覚して渡航して頂ければと思います。その経験は必ず自分自身の発見・成長にもなります。

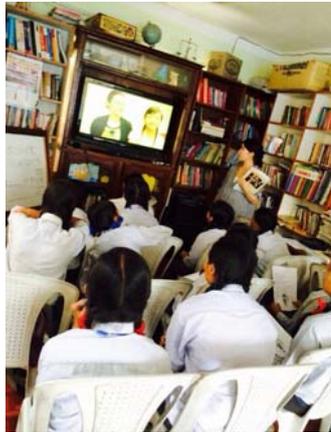
最後に、ネパールの生徒に伝えたい事は、夢を持つ、それに向かって努力するすばらしさを教えてくれてありがとう。日本で待ってるよ! 夢は叶えるもの!! それまで私も頑張るからね!!! 再会できる日を心から楽しみにしています。



नेपाल訪問記(2)

日本語を教えるのは難しい

私は6月16日から約一か月間、NHAにて日本語教師のボランティアをさせていただきました。私はネパールという国に



対して馴染みが全くなく、行くことももちろん初めてでした。ネットや本で調べたりしましたが、ヒマラヤ山脈を有する国でアジアの中でも貧困国だという情報が目に入りました。しかし実際に行ってみたらそんなイメージは覆されました。日本のような便利さはないものの、



みんなとても明るく幸せそうだというイメージでした。日本語を学ぶ姿勢も進学や将来の為を考えて学ぶという感じではなく、ただ日本語への興味、好奇心が強い子が多いイメージでした(もちろん将来日本へ行くために日本語を勉強している子もいました)。



なので子供たちのクラスでは、まず日本語に興味を持ってもらえるように折り紙や歌などを教材にして楽しんで日本語を学んでもらえるような授業を心がけました。グループ授業は授業の雰囲気がとても元気があって、子供たちの笑顔がとてもかわいくてすごく楽しかったです。

しかし、問題点は個々の日本語のレベルがバラバラだったので日本語だけで授業はできないということでした。必ず媒介語の英語を使わないと授業が進まないのも現状でした(といっても難しい英語が必要なわけではないです)。この件に関しては私もすごく勉強になり今もとても役に立っています。



InstaMag

一か月というのはとても短い時間だったので日本語教師のボランティアが来ているその短期間にある程度の日本語を覚えるというのは厳しいと思います。なので、継続的に日本語の勉強ができる環境が必要ではないかと思いました。その継続的に日本語を教えるために期待されているのがサンジェ先生とジョサナさんでした。私はサンジェ先生とジョサナさんに每日一時間の日本語の個人授業も受け持つことになりました。お二人とも授業も宿題も真面目に取り組んでいたのが日本語のレベルもぐんぐん伸びていきました。特にサンジェ先生は「みんなの日本語Ⅰ」は完全に終わり、「みんなの日本語Ⅱ」も半分近く終わっているのが十分初級の子供たちに教えてあげられると思います。ジョサナさんも継続して日本語を勉強すれば十分教えられます。グループ授業と個人授業では全然内容も変わってくるので、とてもいい経験になりましたし、成長をととても近くで見れるので嬉しかったです。

日本語教育ボランティア

山本亜依

教師コラム(2)

NHAにおける英語力の向上のために

NHAは英語を使って、生徒に質の高い授業、教育を提供しています。教師はそれぞれの専門分野の知識はもちろんのこと、英語力も合わせて選考されています。しかし、英語のレベルを改善するためにできることはなお多くあります。次のようなことが非常に役に立つはずですよ。

1. **ネイティブスピーカーによる英語の訓練**・・・教師が英語の正しい発音・アクセントを身につけることにより、生徒たちのリスニング、スピーキングの力が向上することでしょう。
2. **教員に対する1年間の教育学士プログラムの利用**・・・ネパールの主要な大学は1年間の教育学士プログラムと呼ばれる特別のプログラムを提供しています。優れた教授法を身につけた教師を育てるためです。
3. **使える教材、資料を最大限に生かす**・・・図書室、コンピューター教室にある教師・生徒にとって有益な英語の新聞、テレビ等の多くの英語の学習教材を最大限に生かすことです。
4. **双方向制の英語の授業、生徒中心の授業**・・・ペアワーク、ディスカッション、スピーチなど様々な活動を通して生徒が学ぶことができるようすることです。
5. **教員の自己鍛錬のための努力**・・・教師の個人個人の努力も同様に必要です。教師は常に学ぶ立場、生徒の立場であり続けるべきです。

最後に、英語のレベルや技術を高めるのに最短の容易な方法はないと私は思います。

NHA 英語教師

ジテンドラ・ラジ・カルキ



ネパールのカースト制度(最終回)

カーストの日常における意味、重要性

カーストに関する慣習は時間の経過とともにネパールにおいて変化してきましたが、ある共通の特徴があります。カーストによって影響を及ぼされている3つのキーになる生活における分野は結婚、食事、宗教の礼拝・賛美です。

- ① **結婚**：カーストを越えての結婚は厳しく禁止されていました。ほとんどの人が彼ら自身のカーストの中で結婚をしました。
- ② **食事**：食事時には、ブラフマンからの食べ物は誰もが受け取ることができますが、ブラフマンは、自分より低いカーストから食べ物をもらった場合、汚れるとされていました。また、シュードラ（一番低いカースト）の人があえて公共の井戸から水を汲もうとしたら、その人は水を汚したことになり誰もその井戸を使うことができなくなりました。
- ③ **宗教**：聖職者の階級のブラフマンは宗教儀式を指揮するものとされていました。クシャトリアとバイシャのカーストは礼拝する完全な権利を持っていますが、シュードラは神々にいけにえを捧げることが許されませんでした。また、シュードラは教育を受けたり、高いカーストの人々の教えを聞いたり、神々に賛美をしたり、池を掘ったり、ヒンドゥー教のお祭りに参加したりすることも禁じられていました。

まとめ いくつかのカーストを特徴づける基本的な要素は以下のとおりです。

- ①カーストはヒンドゥー教の制度で、他の宗教にないヒンドゥー教特有のものです。
- ②カーストは上からブラフマン、クシャトリア、バイシャ、シュードラの4つに分類した職業を含む身分制度です。
- ③カーストは生涯不変のものであり、ヒンドゥー教の歴史、神話を通して、世代を越えて伝えられてきました。
- ④カーストは人権上、最も搾取的な身分制度です。

今まで、カースト制度の歴史、概要、問題点などを考えてきました。現在では法制上は廃止されたことになっています。そして、徐々に社会の発展とともになくなりつつあるのも事実です。それでも、ネパールからカースト制度をなくすことは決して容易なことではありません。しかし、あきらめずに、法的にも、社会的にも、国際社会の中でこれからネパールが生きていくために、その過ちを国民だけでなく、国際社会に訴えていくことが大切なことと思われまます。BFNの皆様がネパールの置かれている特殊性に目を向けていただくことができれば幸いです。

ありがとうございました。

元NHA教頭 コモル・プラサド・ポカレ



子供たちの日常生活(10)

子供の名前 : アシュミタ・シュレスタ
 お父さんの名前 : ラジュマン・シュレスタ
 お母さんの名前 : アシャマヤ・シュレスタ

学年 : 7年生
 お父さんの仕事 : 警備員
 お母さんの仕事 : 主婦

アシュミタは7年生で、経済的に貧しい家庭の生徒です。彼女は幼稚園からNHAで学んでいます。アシュミタには兄と姉が一人ずついます。彼女はカトマンドウのマチェガウンに両親とともに暮らしています。彼女は1年生の時にBFNの奨学生に選ばれました。アシュミタは非常に勤勉で、しばしば試験でよい成績を修めています。



彼女は午後10時30分に寝て、朝6時に起きます。学校は10時に始まり、午後4時に終わります。家から学校までは5分程かかります。放課後は先生たちに出された宿題を家でします。宿題を終わらせた後、友達と遊ぶことが大好きです。また母親の家事を手伝います。部屋の掃除、水やり、洗濯などです。彼女は花や植物の世話をします。

彼女は姉に特によくかわいがられています。彼女の姉は教育に関心があります。時にアシュミタは両親に反抗的になり、怒るときがありますが、それ以外は家庭においてよく従う誠実な娘です。

彼女はNHAで奨学金を受け

けることができ、大変喜んでい

ます。彼女は里親からの

プレゼントや手紙を大変喜び、里親に感謝しています。

アシュミタの父は言っています。

「私の娘に奨学金を与えてくださり、誠にありがとうございます。私の家族に対してあなたが与えてくださったこの親切を決して忘れま

せん。私には3人子供がいます。警備員として働いていますが、私の収入では家族の必要をすべて満たすことは困難です。ですから、学費を支払うことはとても難しいことです。私は里親の方に直接お会いしたことはありませんが、このようなかけがえのない素晴らしいご支援を私の娘だけでなく、ネパールの多くの子供たちの為になさってくださっていることに心からお礼申し上げます。ありがとうございます。」

またアシュミタの担任の先生は言っています。「アシュミタは7年生の中で誠実な生徒の一人です。彼女は勤勉です。彼女は教師の指示に良く従います。彼女は生徒が持つべき良い資質をすべて備えています。彼女はスポーツもよくでき、特にバレーボールは上手です。今のまま彼女が歩んでいけば、将来間違いなく成功する人物になるでしょう。」



質問箱

質問:「毎年送られる『成長の記録』を見るのを楽しみにしています。支援している子供が頑張っていて勉強している様子が目に見えてくるようです。さて、ネパールでは普通、授業は何時に始まるのでしょうか。時間割はどのようになっているのですか。」

回答: 学校は日曜日から金曜日で土曜日が休日です。始業時間は午前10時です。NHAでは毎日朝礼があり、全員運動場に集まって点呼を受けます。それから授業が始まります。

表 2014年のNHAの1年生と10年生の時間割

	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目	8限目
1年	算数	理科	英語（書き方）	体育	英語	社会	国語	
10年	社会	保健	数学（必修）	理科	国語	英語	数学（選択） 人口問題	会計 パソコン

1週間、同じ科目で授業を受けます。先生は授業毎に交代し、40分授業です。2限目と3限目の間に10分間の休憩があります。4限目が終わると30分間の休憩があり、昼食をとります。5限目から7限目まで休憩はありません。終業時刻は、1～7年生は午後3:20で、8～10年生は午後4:00です。遠くから来ている子供はスクールバスで帰ります。

日本と違って、道徳、体育、芸術（音楽、美術、工芸、書道）、家庭等の科目がありません。健康の増進と体力の向上を図る教育や、情操を養う教育、家庭生活に必要な能力と実践的な態度を育てる教育で遅れています。また、全ての学校が10学年までであるわけではありません。6学年、8学年の学校も地方にたくさんあり、卒業まで学ぶことをせず、中退してしまう子供が多いです。全ての子供たちが初等教育を受けられるようになるまでの道はまだまだ遠いです。

ネパール豆知識(これって知ってた?)

アジアの赤ひげ、岩村 昇

世界で活躍している日本人は多くいます。オリンピックやノーベル賞をもらった有名な人は知られていますが、在野の人も多くいます。岩村 昇もその一人です。

岩村 昇は、愛媛県宇和島市出身。広島での被爆体験から医療の道に進み、1947年旧制松山高等学校に編入、1954年鳥取大学医学部を卒業後、鳥取大学医学部助教授を経て、1962年に海外医療協力会(JOCS)から派遣され、医師や設備が極端に不足していたネパールに赴任しました。

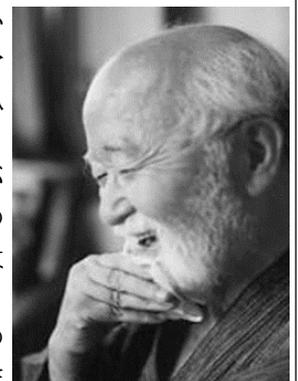
結婚式の披露宴の最中に鳥取にちなんで「我々二人は、今日からとり残された場所に行って、とり残された人々とともに、とり残された問題にとり組みます。以上とりとりの誓い。」と宣言しました。このとりとりの誓いがやがてネパールの山の中、無医村の医療活動に結び付いたのです。

当時ネパール国民の平均寿命は37才。1700mの山の上にあるタンセン病院を中心に、山間僻地に蔓延していた結核・ハンセン病・マラリア・コレラなどの伝染病治療と予防、そして栄養改善のために、史子夫人と共に18年間奮闘しました。その間、現地の孤児12人を養子として育てました。

「何も無いアジアの村で得たものは、カネでは買えない豊かな人間関係です。生活があまりにも便利になり過ぎ、自分のことだけ考えていれば夜が明け、日が過ぎて行くかのように思えて……。人は独りでは生きていけない、お互いに分かち合って生きる他に道は無いのが、この宇宙船地球号の実態なのです。」(PHDレターより)

その後、健康面からドクターストップがかかり帰国を余儀なくされ、神戸大学医学部の教授として働かれ、1993年「アジアのノーベル賞」と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞されました。ネパールへの思いを託して2005年11月に天に帰られました(享年78歳)。

岩村 昇について知りたい方には、岩村昇著「ネパールの碧い空」(講談社)が出版されています。現在は絶版ですが、アマゾンの中古本で買うことができます。是非とも一読をお勧めします。



「連合・愛のカンパ」からの助成決定

BFN東京支部理事 平岡真実氏が所属している「連合・愛のカンパ」に助成申請を3月に行い、審査の結果、11月に助成が認められた。

東京支部ソーラーシステム研究班では、平岡氏が中心となり低開発国での手作りソーラーの実用化の研究を行ってきた。2012年から山形県立東根工業高校の献身的な協力を得て、2度のネパール訪問を通してNH Aの生徒に手作りソーラーの作成指導を行った。生徒も自分たちの手でソーラーを作成できる段階までになった。今回、更にこの事業が認められたことは、これからの研究に大きな励みと弾みを与えることになる。

◎申請対象事業名: 太陽電池を用いた学校支援による学習環境改善事業

◎助成金: 200, 000円(申請額500, 000円)

支援者状況

2014年4月～2014年9月

2014年9月30日現在

区分	人数・件数	金額	備考
正会員	22名	入会金 10,000円 月額 3,000円	
賛助会員	107名	月額 2,500円	
子供支援数	109名	月額 2,500円	
スポット支援	28件	388,000円	

新規に支援される子供たち

2014年4月～2014年9月

2014年9月30日現在

氏名	性別・学年	氏名	性別・学年	氏名	性別・学年
スベクシャ・タパ	女 1年生	リシタ・アディカリ	女 2年生	アユシャ・マハリヤン	女 4年生
ビニシャ・シャイ	女 3年生	ニキタ・ラマ	女 2年生	ニスチャル・バハンダリ	男 1年生
ウクニ・マハンダー	男 1年生	サラ・マハリヤン	女 1年生	アユシャ・マハリヤン	男 4年生

新中期目標 (5年計画)

2014年9月30日現在

(単位 円)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	備考
子供支援目標数	80名	85名	90名	105名	110名	
(現被支援者数)	81名	85名	100名	103名	109名	
スポット支援目標額	500,000	500,000	500,000	900,000	900,000	単年度
(現支援収入額)	941,977	764,000	1,262,800	936,500	388,000	
(現年度支援額)	335,834	411,148	561,700	749,782	300,000	
(留学生支援金)			300,000	594,800		
支援繰越額	606,143	958,995	1,360,095	1,546,813		累計額

長期ビジョン積立金

2014年9月30日現在

(単位 円)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	合計
長期ビジョン積立金	454,500	503,500	570,000	607,500	317,500	2,453,000

編集後記

NHKの朝の連続テレビ小説「マッサン」が人気を博しています。作品のモデルは、ニッカウキスキーの創業者、竹鶴政孝とその妻リタです。実際、竹鶴が勤めた会社は、サントリーの前身である寿屋で創業者は鳥井信治郎で、ドラマでは、通称、「鴨居の大将」と呼ばれています。鴨居の大将は、よく「おもしろいな。やってみなはれ」を口にします。大阪人らしく、商売をするにしても大胆なチャレンジ精神が溢れています。

BFNもBFNしかできないような、面白いことに挑戦することができれば、どんなに楽しいでしょうか。そして、会員の皆様から「おもしろいな。やってみなはれ」と後押しのご支援をお願い致します。